

人材育成に力を入れ、多くの放射線治療専門医を全国に輩出してきた群馬大学大学院医学系研究科腫瘍放射線学講座。大野達也教授は、地域医療の充実を図るとともに先進的治療と研究、教育に力を入れたと語る。

—これまでの歩みは。

1959年の開講以来、一貫して人材育成に力を入れ、多くの放射線治療専門医を輩出してきました。また、地域医療の充実を図るとともに、国際活動を通じたアジア地域の放射線治療標準化と人材育成に取り組み、海外の先進的医療機関や産業界と連携して重粒子線治療の新たな研究開発にも努めています。

本学の重粒子線治療は、2010年に先進医療として開始しています。こ

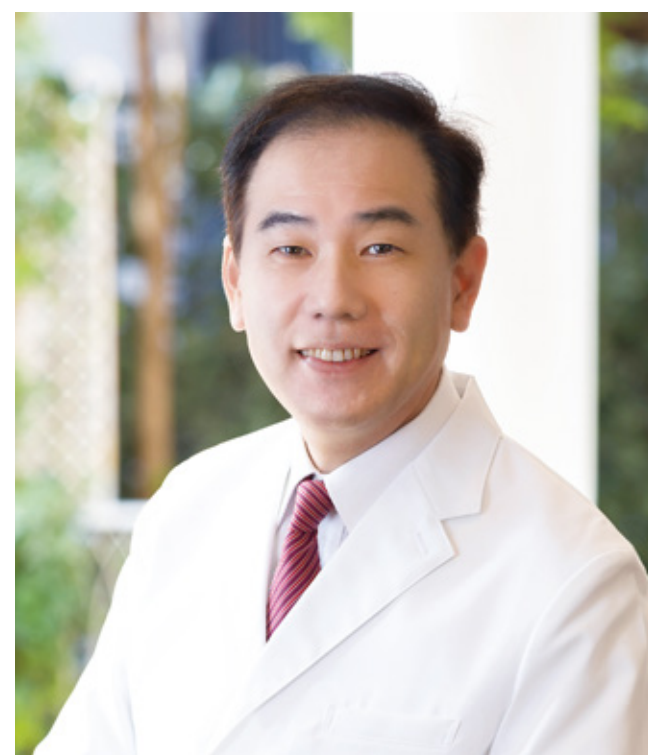
れは、大学病院に設置された施設としては国内初、世界でもドイツのハイデルベルグ大学に次ぎ2番目です。国内ではそれまで、研究所の附属施設や放射線科の単科病院で設置されていることが多かったことから、手術や薬物療法などの併用療法に制限があったり、がん以外の併存疾患によっては自施設で対応できなかったりといった課題がありました。

群馬大学は、外科や内科などの集学的治療に関連する診療科だけでなく、口腔(こうくう)ケア、栄養サポートチーム、緩和ケア、リハビリなどが、がん診療に必要な医療チームが充実しており、がん以外の併存疾患に対してもワンストップで対応できる点で、大きな強みを有していると言えます。

講座クローズアップ

群馬大学大学院医学系研究科 腫瘍放射線学講座

日本の放射線治療をリードし、世界へ!



おおの たつや
大野 達也 教授

1993年群馬大学医学部卒業。同附属病院、栃木県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、放射線医学総合研究所重粒子医学科学センター病院(現:QST病院)などを経て、2019年から現職。

—講座の特徴は。

放射線治療は、全臓器のがん、小児から高齢者までが幅広く対象となり、がんの根治から痛みの改善のような症状緩和まで、さまざまな目的で用いることができます。これからの超高齢社会の中、低侵襲の放射線治療には、大きな期待が寄せられています。

放射線治療の進歩は目覚ましく、画像情報に基づきピンポイントに狙う高精度照射技術が百花繚乱のごとく現れ、標的のがんに対してより強く、周囲の健常臓器にはより優しい照射が可能となりました。私たちの役割は、治療手段としての放射線をうまく使いこなし、患者さんの価値観に寄り添いながら、根拠に基づき安全で高品質の治療を提供することです。そして、現状に満足することなく常に課題に挑戦し、目の前の、そして未来の患者さんのために放射線治療の新たな価値を創造していきたいと考えています。

基礎研究では、がんゲノム(情報)を活用した放射線治療の個別最適化、免疫療法併用を含む集学的治療開発、重粒子線治療の高度化や、適応拡大に関する研究など、AIも駆使して取り組んでいます。

臨床研究では、国内臨

床研究グループや国際臨床試験に参加し、放射線治療のエビデンス創出に努めています。また、多職種協働で患者さんのQOL向上の研究や、経済学の専門家と医療経済評価を行う分野融合型研究など、広い視野に基づく研究も推進しています。

—今後は。

魅力ある人材の育成は、最も重要なミッションです。専門教育の講義や実習では、学生に「何を教えたか」よりも、学生が「何を学んだか」を大切にしています。卒後研修では、早期より国際学会などに参加し、世界の高いレベルや多様な観点を学べるよう支援し、放射線治療専門医と大学院の学位を取得する体制を充実させています。「がん治療に携わりたい」「地域医療で活躍したい」など選択のきっかけはさまざまですが、多様性と将来性に富んだ当講座の魅力を十分に発揮し、未来の放射線医学を担う人材を育てていくつもりです。

大学は、研究を通じて新たな知を創造していく場ですが、それは社会に必要とされるものでなければなりません。社会の変化を感じ取りながら、社会の中で価値を創造していけるよう仲間と取り組んでいきます。